

第3回 新複合施設建設委員会次第

日 時：令和7年3月18日（火）

午後1時30分～

場 所：坂城町役場 講堂（3階）

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議 事

（1）新複合施設 基本設計について

（2）今後の予定について

① 新複合施設基本設計 町民説明会

日 時：令和7年3月28日（金） 午後7時～

会 場：文化センター 大会議室

※別途町民への意見聴取を実施予定

（3）そ の 他

4. 閉 会

【新複合施設建設委員会】

(敬称略)

氏 名	役職	所属・役職	分野	備考
松下 重雄	委員長	公立大学法人 長野大学 環境ツーリズム学部教授	学識経験者	
滝沢 幸映	副委員長	坂城町議会 議長	町議会議員	
玉川 清史	委 員	坂城町議会 社会文教常任委員会 委員長	町議会議員	
中嶋 登	〃	坂城町議会 議員（中之条）	町議会議員	
柰津 明子	〃	坂城町議会 議員（中之条）	町議会議員	
武田 和雄	〃	坂城町シニアクラブ連合会 会長	福祉	
塚田 明	〃	坂城町民生児童委員協議会 会長	福祉	
中澤 範子	〃	千曲・坂城障がい者(児)基幹相談支援センター センター長	福祉	
宇治 春菜	〃	健康運動指導士	保健	
宮澤 宏	〃	坂城町校長会 代表（南条小学校長）	教育(学校)	
高井 資昌	〃	坂城町体育協会 会長	教育(スポーツ)	
成澤 瑛子	〃	子育てサークル 代表	子育て	
上野 敬一	〃	坂城町社会福祉協議会 会長 坂城町社会教育委員 代表	福祉・生涯学習	
柳沢 謙樹	〃	坂城町区長会 会長	まちづくり(自治区)	
野村 繁	〃	坂城町区長会 会長代理	〃	
鈴木 雅視	〃	坂城町商工会長	まちづくり(産業)	
金田 信善	〃	テクノハート坂城協同組合 事務局長	まちづくり(産業労働)	
若麻績 節子	〃	公募委員		
小宮山 能康	〃	公募委員		
柳澤 玉枝	〃	公募委員		

【オブザーバー】

(敬称略)

氏 名	所属・役職
嶋本 耕三	嶋本・SCOP共同企業体（コンストラクション・マネジメント≒発注者側支援事業者）
跡部 嵩幸	〃
柳澤 喜久男	㈱宮本忠長建築設計事務所 管理技術者（基本設計業務業務事業者）
西澤 広智	〃 建築(総合)主任
内堀 克哉	〃 建築(総合)担当
丸山 友基	〃 建築(総合)担当
小口ゆずき	〃 建築(総合)担当

【坂城町】

(敬称略)

氏 名	所属・役職	備考
山村 弘	坂城町長	
臼井 洋一	坂城町副町長	
竹内 祐一	坂城町企画政策課 課長	
小河原 秀昭	坂城町企画政策課 まち創生推進室 室長	
竹内 知輝	〃 主事	
溝端 利樹	〃 主事	

カネーテ

多世代が気軽に交流して、生きがいを持てる、まちの居場所

坂城町らしい街並みや歴史的な特徴を活かし、人々が日常的に行き交う、地域に深く根差した施設を計画します。

01 坂城町の歴史からひも解く

坂城町はかつて北国街道随一の賑わいを誇った坂木宿として、流通や情報伝達の拠点として繁栄してきました。坂木宿は、旅人や商人の往来を円滑するため、横町・立町・新町という3つの内部動線と、外部動線を明確にするための枡形によって設計されていました。また、町の構造の中核として「曲尺手（かねんて）」を取り入れることで、町全体に統一感と調和をもたらし、住民や訪問者にとって分かりやすく、魅力的な都市空間を形成してきました。現在でも「曲尺手」に沿って並ぶ民家や店舗の街並みから、かつての宿場町の面影を感じることができます。

曲尺手(かねんて)とは？

曲尺手は、宿場町に見られる構造で、道を曲げることで多くの店舗や民家を配置し、商業活動を活性化させました。また、曲尺手は人の動きを促し、人が集まる場所を創り出し交流を促進する役割も果たします。



江戸期の坂木宿の絵図



北国街道の絵図

02 計画敷地と周辺施設との関係性

- 計画敷地は市街地エリアの中心に位置し、「まちなか交流拠点」の一つとされています。高齢者だけでなく、近接する坂城中学校からも利用者が多く、子どもから大人まで様々な世代が集まりやすい場所です。
- 周辺には住民活動に根ざした文化センター、図書館、格致学校などの文化施設や、体育館、グラウンド、武道館などのスポーツ施設があります。
- 周辺施設の中心に位置する新しい複合施設は、それぞれの施設をつなぐ『むすびめ』として、施設や地域を活性化させる役割を期待されています。
- 坂城ICからも近く、坂城町のハブとして、デマンドタクシーや循環バスの要所になります。



文化センター・体育館



図書館



格致学校



03 目指す施設像

- 新しい複合施設は曲尺手の構造を取り入れ、歴史と現代が融合した空間を創出します。これにより、多世代が気軽に交流して生きがいを持てる、まちの人々の居場所を創出します。
- 多世代による「見守りふれあい関係」を生み出すことで各部門の相乗効果を高めます。高齢者は子どもを気かけ、子どもは高齢者とふれあう。この双方の関係はお互いの理解につながります。
- 災害時には早期対応が可能な福祉避難所として機能し、安全性を確保できる柔軟な施設計画とします。



04 外部デザイン

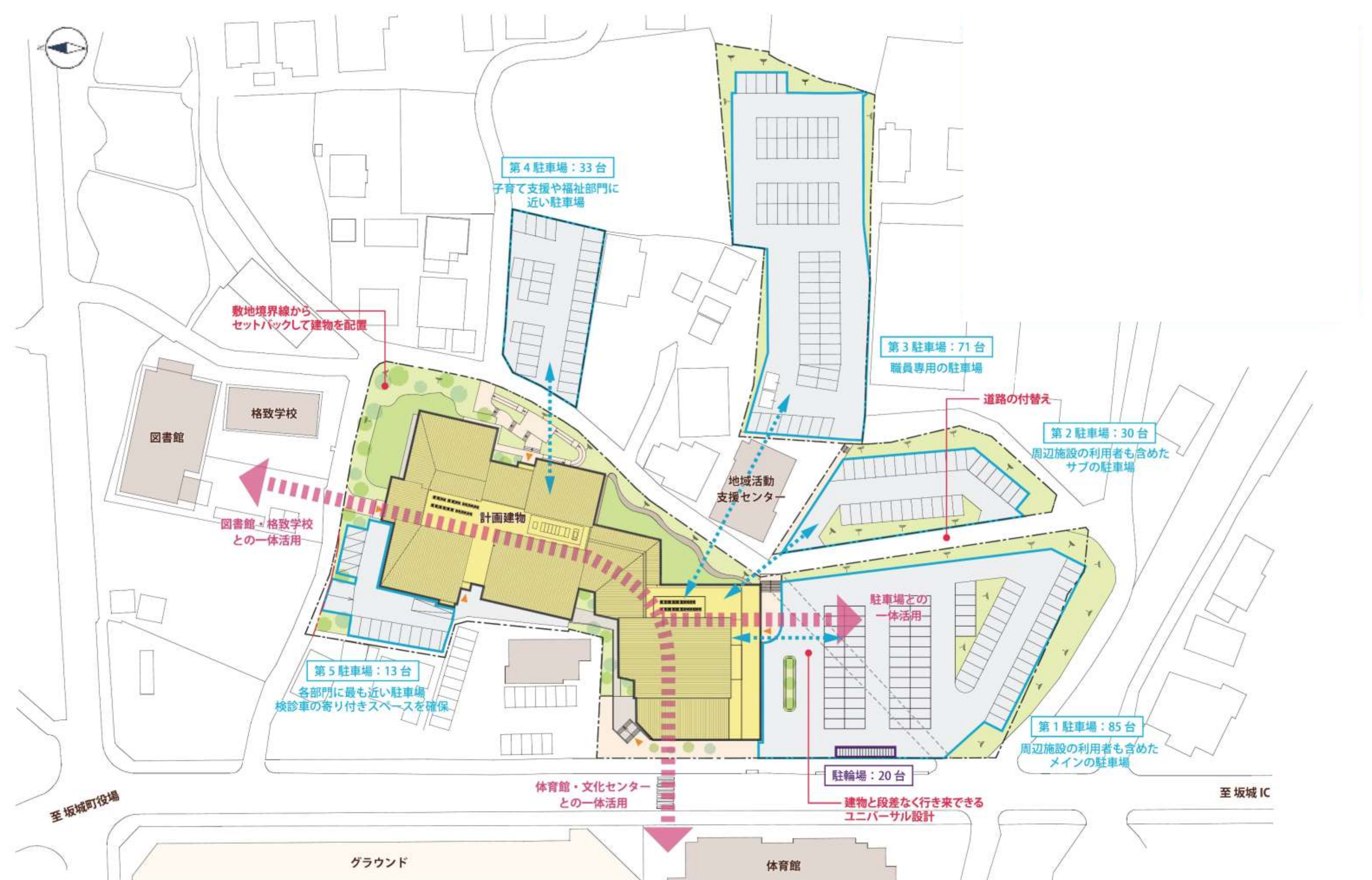
- まちなか交流拠点のランドマークとして、外壁にはシンプルかつ存在感のある鉄筋コンクリートの壁を採用し、伝統的な小屋組みの温かみを融合させ、坂城町の歴史ある街並みと美しく調和するデザインとします。
- 打放し仕上の鉄筋コンクリート壁は、かつての城下町が持っていた防御の役割や歴史的な趣を現代のデザインに落とし込み、直線的でのびやかな造形を強調します。小屋組みの木造部分は、自然素材ならではの質感と温もりをもたらし、住民や訪れる人々に安心感と快適な空間を提供します。
- 外部空間の豊かさを重視し、敷地を広く使った平屋建てとしつつ、道路や隣地から距離を確保する計画とします。また、建物周囲には日当たりのよい庭を設けることで開放的な空間を創出します。明るく開放的な施設は、利用者の心理的ハードルを下げ、気軽に訪れやすい空間となります。
- 屋根形状は、宿場町のような景観を生み出すため、建物のボリュームを曲尺手に沿って分節配置し、それぞれに勾配屋根をかけます。また、夜間には木組みの陰影が際立つ、幻想的な雰囲気を演出します。

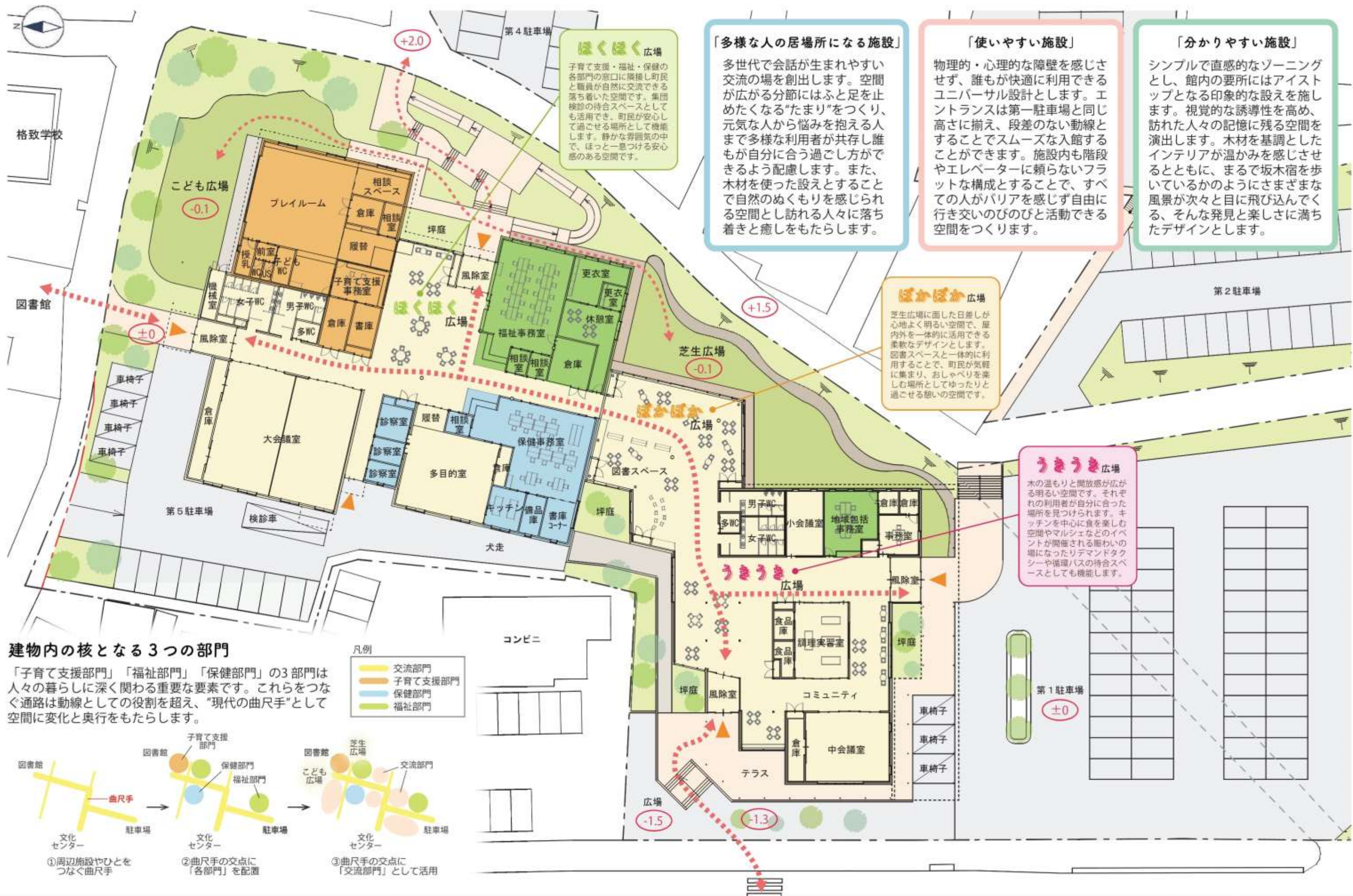


宿場町を想起させる屋根形状と豊かな外部空間



木造の小屋組みを活かした温もりある空間







西より建物全体を眺める



北東より建物全体を眺める



南側 第一駐車場より建物を見る



西側道路より建物を見る

※実施設計段階の検討・協議により変更する可能性があります



南側のメインエントランスと車寄せの底



ぽかぽか広場から直接外に出られる芝生広場(東側)



ほくほく広場に入るエントランス(東側)



プレイルームから繋がる、こども広場(北側)

※実施設計段階の検討・協議により変更する可能性があります



うきうき広場 南側エントランスから入る



うきうき広場 曲尺手のたまり場空間



うきうき広場 図書スペースを眺める



ぽかぽか広場 図書スペース

※実施設計段階の検討・協議により変更する可能性があります



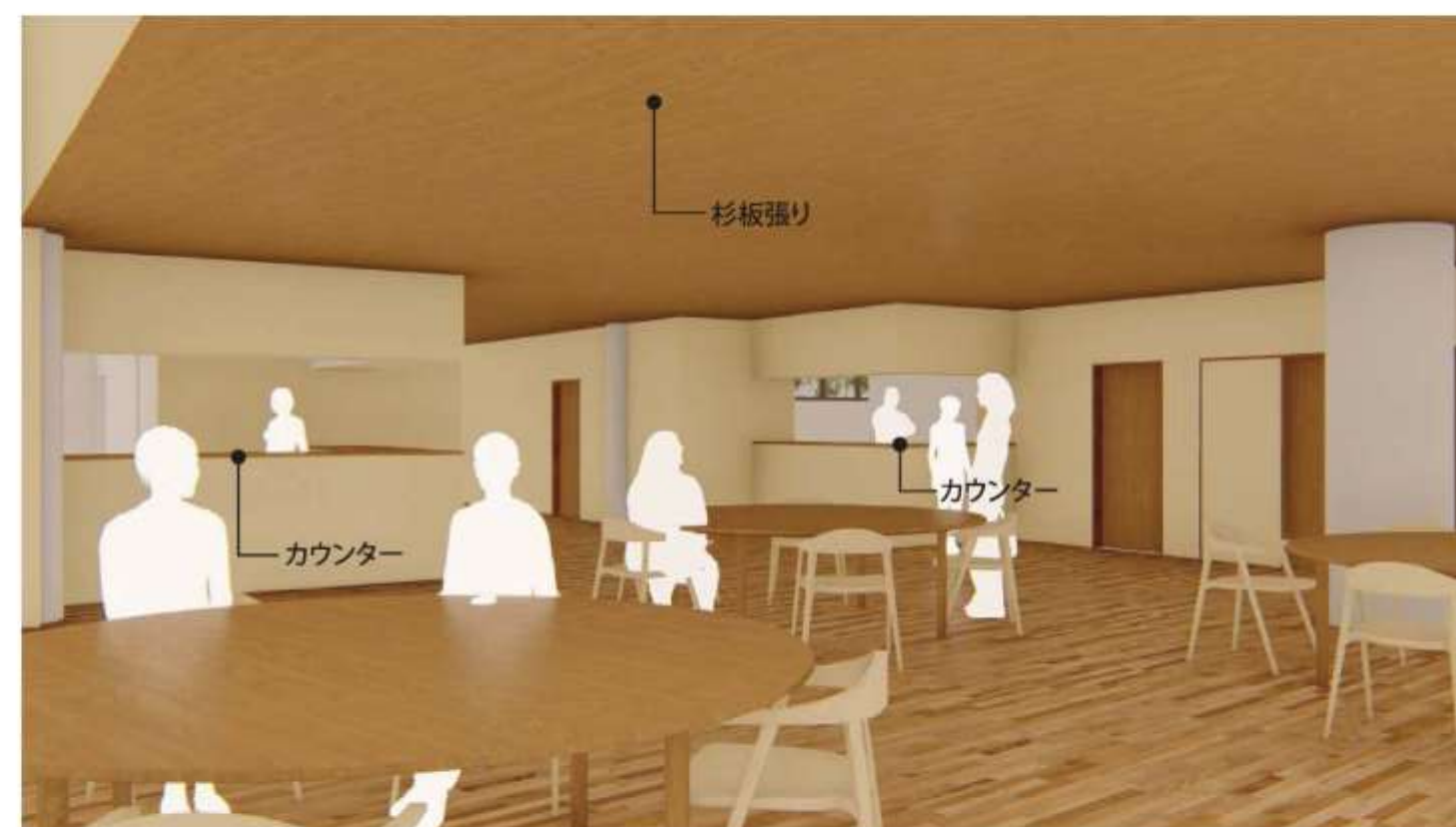
ぽかぽか広場 外の芝生広場を眺める



天井を下げた落ち着いた空間にする



ほくほく広場 子育て支援センターを眺める



ほくほく広場 各部門の窓が分かりやすい計画

※実施設計段階の検討・協議により変更する可能性があります

●構造計画概要（抜粋）

○構造 基本方針

- ・敷地条件、道路条件、周辺環境、地盤特性等を明確に把握した上で、諸条件を満足した計画とする。
- ・地域の人々に根差した安心安全な施設とするとともに、大地震時の損傷を抑制し、福祉避難所としての機能を維持する耐震性能・安全性能を確保できるように計画する。
- ・耐震安全性の目標水準（構造体：Ⅱ類）として、大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用でき、かつ人命の安全確保に加えて機能確保を図るため、用途係数 1.25 倍とし計算を行う。
- ・RC 壁を採用し、その上部に小屋組みを設ける構成とする。RC 壁の耐震性・耐久性を活かしつつ、上部を木造小屋組みとすることで軽量化を図り、地震時の負担を軽減する。RC 壁と木造小屋組みの剛性差を考慮し、適切な水平構面を確保することで、変形の抑制と安全性を高める。
- ・RC と木造の接合部には耐震金物・アンカーボルトを適用し、引き抜き力やせん断力に十分対応する。
- ・地盤状況（N 値 10 以上）を考慮し、安定した支持力を確保できるため、直接基礎（一部ピット）を採用する。不同沈下を防ぐため、地耐力や排水対策にも配慮する。

●電気設備計画概要（抜粋）

○電気設備 基本方針

- ・信頼性、安全性及び保全性等を考慮して計画を行う。
- ・省エネルギー性能に配慮し経済性と快適性を両立した計画を行う。ZEBready を達成する計画とする。

○防災・安全性

- ・耐久性の高い機器、配管、材料を採用し、機器の固定、配管支持など耐震安全性を考慮した計画とする。
- ・福祉避難所として災害時の使用を想定した計画（自家発電機の設置など）とする。
- ・多様な世代の安全性と利便性を確保する防災・防犯設備および誘導支援設備を計画する。

○将来性・保守性

- ・将来の拡張性や保守性に配慮した設備計画を行い、省資源化・省力化を図る。
- ・管理運用と保守管理の容易な設備計画とする。
- ・将来的な太陽光発電パネル、蓄電池の設置できる計画とする。

○快適性・利便性

- ・多世代の利用者が使いやすく、管理者の運用管理面でも分かりやすい、利便性のよい設備計画とする。

○環境・省エネルギー

- ・高効率・省エネルギーな設備機器やシステムを採用し、環境に配慮した設備システムとする。
- ・ライフサイクルコスト縮減と維持管理費の低減を図った計画とする。
- ・照明器具はセンサー類を活用して省エネを図る。また、室用途に応じた明るさ、色温度、グレア対策を計画し、快適な視環境とする。

○景観・意匠性

- ・建築その他関連工事と十分な調整を行い、周囲の景観や建築物の意匠性を損なわないよう配慮する。

●機械設備計画概要（抜粋）

○災害時における信頼性の確保、防災拠点機能の確保

- ・電力インフラの停止を想定し、非常用発電機を設置し、災害時にも必要となる執務環境機能維持計画。
- ・主要機器の耐震強度、転倒防止、配管、ダクトの耐震固定、支持など確実な耐震対策を行う。給排水配管、建物導入部は変位吸収配管を行う。

○環境負荷の低減と省エネルギー化

- ・ヒートポンプ方式空調設備、高効率機器、インバーター方式動力機器を採用し、建物の断熱性能と合わせ、省エネ化を図るとともに 二酸化炭素 CO₂ の排出量を低減する。
- ・空調消費エネルギー削減のため、共用部は成層空調を主体とした空調設備を計画する。
- ・節水のため、トイレや手洗器は節水型衛生器具を採用する。自動水栓や擬音装置による更なる節水を図る。

○快適性、利便性の確保

- ・施設及び各室に要求される空調機能を十分に理解し、効率よく無駄のない快適性の高い空間を計画する。
- ・設備機器は、汎用品を積極的に採用し、シンプルな設備構成とし、運用の容易化や更新時の経費削減を図る。
- ・感染対策の充実を図り、屋内環境自動監視を計画する。又、衛生器具等は非接触型の機材の選択をする。

○空調方式

- ・空調方式は、維持管理が容易な個別式とする。エネルギーは機器効率の高い、電気式とする。機器は空気熱源ヒートポンプユニットとする。
- ・共用部は床吹出型空調機を採用した成層空調とし、空調熱負荷の低減を図る。

○床暖房計画

- ・プレイルーム（子育て部門）、多目的室（交流部門）に設置。
- ・主暖房としての位置づけではなく、床からの冷輻射熱除去及び冷たくない床程度の対応にて計画する。

○換気方式

- ・居室などは、確実な換気を行うため、第 1 種換気を主方式とする。
- ・機器は全熱交換器を採用し、外気負荷を低減する。
- ・トイレ、倉庫などは第 3 種換気とする。給気は居室などからの還気（パス）とし、生外気の直接給気は行わないように配慮する。
- ・感染症対策の実施 1) CO₂ 制御、人感センサー制御、タイマー制御等の計画を施す。
2) 居室の換気量は 1 人あたり 30m³/h を目安として計画する。

宮本忠長建築設計事務所	JOB No.	JOB NAME	SEET NAME	SCALE	DATE	
	2647	令和6年度 坂城町新複合施設 基本設計業務委託	各工事種別計画概要（抜粋）	—	2025. 3	